



Title	可能の意味を表す慣用文型について : 日本語から中国語に翻訳する際の問題点から
Author(s)	林, 煒煌
Citation	大阪大学言語文化学. 1999, 8, p. 143-159
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78053
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

可能の意味を表す慣用文型について

— 日本語から中国語に翻訳する際の問題点から —*

林 焯煌**

筆者在日本求學、常有機會從事翻譯的工作。在將日文翻譯成中文時、發現日本語中有許多句型表現常常要翻譯成中文的可能表現、然而、這些日文表現並不是日本語裡所謂的可能表現。再則、筆者發現在日語母語者學生的作文當中、常常會漏忘使用中文的可能表現。因為學生們原本想表達的意思的日文之中、沒有傳統文法裡的可能表現形式、所以學生們在將腦海裡的日文轉換成中文之時、自然地也就沒有想到要使用中文的可能表現了。

綜合以上的經驗、筆者立下了這樣的一個假說、即、現代日本語中除了傳統文法裡列舉的可能表現形式以外、還有很多的句型表現也可用來傳達可能的意思、並且在翻譯成中文時、也是必須要使用中文的可能表現的。

本論文將上述之句型表現區分為「帶含可能意思單字的句型」及「蘊含可能語意的句型」兩種來加以敘述。「帶含可能意思單字的句型」中、所謂「含可能意思」的單字、諸如「はず」、「う／よう（助動詞）」、「わけ」、「べき」、「なる」等即是。使用這些單字所造的表現句型、例如、「〔用言連体形〕 はずが（は） ない」、「う／よう＋ 」（形式）名詞否定形」、「〔動詞終止形；さ変動詞語幹す〕 べくもない」等句型、都含有可能的意思、而「蘊含可能語意的句型」諸如、「〔体言（が）〕 あっての 〔体言〕」、「〔動詞終止形〕 ものか（もんか）」、「〔動詞連体形〕 しかない」等、句型中雖然沒有任何蘊含可能意思的單字、可是、句型全體所表達的意思却有可能的意思。

本論文從翻譯的角度出發、以對照語言學的方法、試圖將現代日本

*帶有可能含意慣用句型試論—從日翻中的角度探討—(林 焯煌)

**言語文化研究科博士課程後期課程一年

語的可能表現形式的範圍重新定位。如上所述、本論文確立了現代日本語中除了傳統文法裡列舉的可能表現形式以外、還有很多的句型也都具有可能的意思。而在將這些句型表現翻譯成中文時、也是必須要使用中文的可能表現形式——「會」、「能」、「可以」或「可能」才行的。

1 はじめに

日本語の可能表現を中国語に翻訳する際、一般には中国語の可能表現——「會」、「能」、「可以」或は「可能補語」を使う。しかし、日本語には従来可能表現とされているもののほかにも、可能の意味を表せる表現が多数ある。しかしこれらの表現は可能表現として把握されないため、中国語に翻訳される際しばしば誤訳が生ずる。本稿は、このような表現を取り上げ、そこに含まれる可能の意味を検討し、そして中国語の可能表現との対応関係を明確にする。

1-1 翻訳における問題点

中国語話者の日本語学習者や日本語話者の中国語学習者が、それぞれの目標言語の可能表現の意味と用法を習得した場合、習得した言語を使用するにあたって、文法的なレベルでは確かに正確に使えるようになる。しかし、翻訳のレベルでは、いつも正確な翻訳を行えるとは限らない。まず、中国語話者の日本語学習者が、日本語の可能表現¹⁾を中国語に翻訳する際、生じうる問題を見てみよう。いくつかの誤訳例を挙げよう²⁾。

(*は誤文、誤訳を表わす)

- (1) あの男がそんな悪いことをしようはずがない。

*那個男人不應該做出那麼壞的事。→那個男人不可能做出那麼壞的事。

- (2) 相手商社の商業活動は知るべくもない。

¹⁾ 従来、可能表現だとされてきているものと、本稿で扱う可能表現の枠に入るべき表現（周辺の可能表現）を両方含む。

²⁾ 筆者は1997年6月に、日本語学習歴5年以上の中国人学習者10人を対象として行った調査から得た結果による。

* 不應該知道對方商社的商業活動。→ 無法知道對方商社的商業活動。

- (3) 決算というのは、計画や予算あつてのものです。

* 決算就是有計畫和領算的東西。→ 決算是有了計畫和領算之後才能進行的。

以上の例で見ると、「…はずがない」、「べくもない」などの表現を含む日本語文を中国語に訳す場合、中国語の「會」、「能」、「可能」などの可能助動詞が抜ける傾向があった。その原因の一つは恐らく、被験者である日本語学習者がこれら下線の表現に可能の意味があることを気付かなかった、というところにあるのであろう。

次に、日本語話者の中国語学習者が、次のような日本語表現を中国語で表現する際、よく見る間違いを見てみよう。以下その誤文を挙げる³⁾。

- (4) 列車は午後五時東京着のはずだ。

* 火車應該下午五點抵達東京。→ 火車下午五點應該會抵達東京。

- (5) 多くの人がこの岬にやってきてダイビングをする。我々ダイビングのできない人間は、この美しい風景を見るしかない。

* 許多人來到這個海岬潛水。我們不會潛水的人只看看美麗的風景。

→ 許多人來到這個海岬潛水。我們不會潛水的人只能看看美麗的風景。

以上挙げた中国語文が、誤文や不自然な文だと思われたのは、やはり中国語の可能助動詞が抜けているところに原因がある。これらの中国語文のもとになると思われる日本語文の中に、可能表現だと判断できる表現がないため、中国語に訳した際、中国語の可能表現を意識せずにそのまま訳してしまったことが原因だと考えられる。このように、日本語の中には、可能の意味を含み、中国語で表現する場合、中国語の可能助動詞の使用を必要とする表現が数多くある、と考えられよう。

³⁾ これらの誤文は筆者が生徒たち（漢語水平考試「HSK」初・中級 6～7 級程度）に自由作文させた時、実際に作文の中で間違えた例文である。また、生徒たちは、中国語の作文を作る前に、まず頭の中に日本語文が浮かび、それから中国語に翻訳したという。

1-2 研究方法と研究目的

前節で見た誤訳や誤文が生じた原因の一つに、日本語の中にはこれらの表現のような、文や表現自体に可能の意味が潜んでいるにもかかわらず、それが一般にそうとは意識されないものがあることが考えられる。

本稿は、これらの誤訳と誤文を手がかりとし、その原因を突き止めることを目的とする。そのために、まず日本語では可能表現とされないにもかかわらず、可能の意味が潜んでいて、中国語で表わす場合、中国語の可能表現の使用を必要とする文型や表現を収集、分類する。その上で、中国語に正確に翻訳する際に必要となる中国語の可能表現との対応関係を検証していく。

2 先行研究

従来の「可能表現」の枠外に、他にも「可能表現」に入るべき表現があることに気が付き、いち早くこれに取り組んだ研究には、小矢野 1978・1979・1981 がある。小矢野 1978 では、従来の可能表現のほかに、次の各形態も可能表現として認められるべきだとする。{|可能だ|「不可能だ|、{|動詞+かねる| (肯定形で)、{|コト名詞+が+ならない|、{|動詞| +がたい|、{|動詞| +にくい|、{|動詞| +ようがない|、{|見える|「聞こえる|「わかる|のある種の用法|、{|うかる|「たすかる|「つとまる|「もうかる|} ⁴⁾。また、金子 1980 の「認識の可能」⁵⁾；渋谷 1986 の「経験者可能」；渋谷 1986、張威 1991、1993 の「結果可能」など、それぞれ現行の可能表現の範囲を見直すような研究もあった。

本稿の論点を進めていくには、まず「可能」の意味及び、従来の可能表現の表現形式と用法を明らかにしなければならない。そこで、以下これについて述べていく。

2-1 可能表現の定義

金子 1980 は、「可能文」の内容を〈ちからの可能〉と〈認識の可能〉に分けている。小矢野 1981 は、可能表現の範囲を、「有情物の能力を表わす可能から、可

⁴⁾ 宮島達夫 1972 の中に指摘されたもので、小矢野 1981 では「つとまる」の用法だけを認めている。

⁵⁾ 後に金子 1986 では、これを「蓋然性の可能」と改めている。

能性・蓋然性を表わす可能まで…⁶⁾と指摘している。渋谷 1986 は、これらの考えを受け継いで、さらに可能表現の定義を「有情物・非情物の動作（状態）の実現の（不）可能（性）を表わす表現」とする⁷⁾。つまり、「可能」の範囲は、有情物の動作・非情物の状態の実現が可能または不可能であることを表わすもの（例えば、「酒が飲めない」）と、有情物の動作・非情物の状態の実現の可能性の有無を表わすもの（例えば、「地震が起こり得る」）との両方を含むというのである。本稿は、渋谷 1986 と同じ立場を取る。なお、中国語可能表現の定義もこれと同じである。

2-2 可能表現の表現形式

日本語の可能表現には、従来、以下のようなものとされてきた。

- A. 動詞の未然形＋可能の助動詞「れる・られる」
- B. 五段活用動詞の語尾「-u」→「-e-ru」の形を取るもの（可能動詞）
- C. サ変動詞の語幹＋できる
- D. 動詞の連体形＋ことができる
- E. 動詞の連用形＋うる・える

張威 1991、1993 では、日本語の有対自動詞が「結果可能」を表わすことができる、としており⁸⁾、また王恬 1995 では、「妨げのありか」という見地から、日本語の有対自動詞が中国語の「可能補語」と対応する⁹⁾、と論じている。本稿ではこの考え方に従い、日本語の有対自動詞を可能表現の表現形式の一つと見做す。以下、本稿で日本語の「可能表現」という場合、もっぱら前述した従来の5つの「可能表現」に「有対自動詞」を付け加えた、6つの「可能表現」を指す。

⁶⁾ 小矢野 1981「現代日本語可能 表現の意味と用法（Ⅲ）」『大阪外国語大学学報 54 言語』p32 参照

⁷⁾ 渋谷 1986「可能表現の発展・素描」『大阪大学日本学報 5』p101 参照

⁸⁾ 森田 1988、ウェスリー 1989 は、自動詞表現は可能の意味を表すことができると指摘している。さらに、張威 1993 は、日本語の自動詞表現が「結果可能」を表すことができるから、可能表現の一種に見做すべきだと主張している。例えば、「いくら努力しても、彼との差は縮まらない。」

⁹⁾ 妨げ意識が動作がなされるまでに現れる場合、「患者が／を助けられない」を選択し、動作の試みがなされた後の結果に基づいて（或はその結果を予想して）、その段階に妨げ意識が現れる場合、「患者が助からない」（患者救不了了）を使う。

3 可能の意味を表す文型

日本語の中では、膠着語としての大きな特徴をなす助詞・助動詞を用いたり、または、いくつかの接尾辞を使ったりして、特定の文法的機能と意味を表す文型がある。このような文型の中に、可能の意味を表せるものが数多く存在している。

本稿は、これらの可能の意味を表す文型を、「可能表現を含む文型」と「可能表現を含まない文型」との2つに分類する。

3-1 可能表現を含む文型

可能表現を用いて一定の文型で常用されている表現は数多く見られる。これらの表現は「可能」を意味するのは言うまでもない。勿論、これらの表現を中国語へ翻訳する際、中国語の可能表現「會」、「能」、「可能」などの可能助動詞あるいは「可能補語」を使用することになる。

3-2 可能表現を含まない文型

「可能表現を含む文型」のほか、形式上、可能表現を含まないように見えるにもかかわらず、実際には可能の意味を表す文型がある。この種のものを「可能表現を含まない文型」と呼ぶこととする。この中には、文型の中に含まれる単語の意味用法全体、あるいは、一部に「可能」の意味を有している場合がある。「はず」、「う／よう」、「わけ」、「べき」、「なる」などがそうである。また、逆に語彙の上でも可能の意味を含むものを持たない場合もある。従って、本稿では、この種の表現文型を「可能の意味を内包した単語が含まれた文型」と「文脈から可能の意味が汲み取れる文型」、の2つに分けて論じることとする。

3-2-1 可能の意味を内包した単語が含まれた文型

3-2-1-1 「はず」の場合

文法研究上では、「はずだ」をモダリティ形式として捉え、以下のように定義する。森田 1980 では、「はず」の意味を「客観的な条件、状況からして、その事柄が当然あるべき状態であるという判断」である、と定義した。また、野田 1984 では、これを「自分が持っている知識から推論すると、こうなるのが当然

だということを表わす」と定義した。いずれの定義にせよ、「はず」の表わす意味に関しては「ある根拠から推論したことを表わす」というような記述がなされることが多い¹⁰⁾。「はず」の意味が「ある根拠から推論したことを表わす」ことから、従来は中国語の助動詞「應該」と対応すると考えられてきた。

- (6) 彼はそれを知っているはずだ。
他應該知道那件事。
- (7) あの本は彼に貸したはずだ。(篠崎 1981 の用例)
那本書應該借給他了。
- (8) 彼は明日来るはずだ。
他明天應該會來。
- (9) 列車は午後五時東京着のはずだ。(前出の誤文例 4)
火車下午五點應該會抵達東京。(筆者訂正)

ところで、ある根拠によって推論した結論が過去のことか未来のことか、といった結論のテンス、アスペクトの違いによって、「應該」のほかに中国語の可能助動詞「會」を一緒に使うかどうかという違いが見られる。

例文(6)は、推論された事柄が、現に存在していると認識される場合である。例文(7)は、推論された事柄が既に発生し、その状態はいまでも存在している、と認識される場合である。この両者の場合を「既成事態」と呼ぶ。このように、推論した事柄が「既成事態」である場合、これを「既成事態推論」と仮に呼ぶ。「はずだ」は、「既成事態推論」に用いられる場合、中国語では「應該」とのみ対応する。

これに対し、例文(8)、(9)は、推論された事柄が現にまだ発生していない、つまり、将来に発生しうる／えない事態である。これを仮に「見込事態」と呼び、この「見込事態」を推論することを「見込事態推論」と仮に命名する。「はずだ」はこの「見込事態推論」に用いられる場合、中国語に訳す際、推論の助動詞「應該」のほかに、可能性を表わす可能助動詞「會」をも使わなければならない。例えば、「彼は明日行くはずだ。」は「他明天應該會去。」としなければならない。しかし、「他明天應該去。」という助動詞「會」がない中国語文の場合、その日本

¹⁰⁾ 三宅知宏 1993 「認識のモダリティにおける確信的判断について」『語文』61、p38

語文は「彼は明日行くべきだ。」となってしまう。それは中国語では、未来を表わす文脈の中に「應該」を用いる場合、「會」がない限り、その文を「實際上或は情理上での必要性を表わす」意味として捉えているのである¹¹⁾。

次に、「はずだ」の否定形「…はずが(は)ない」について考える。

寺村 1984 は、こう述べている。『「Q ハズガナイ」は、「Q」という他人の発言、あるいは「Q？」という疑問に対して、その可能性を強く否定するために、「Q ダ」という主張を支える理屈はどこにもないという形で言うものである』¹²⁾。つまり、「…はずが(は)ない」は、「予測、推測」を表わすのではなく、「事柄の可能性を否定する」という意味で使われているのである。したがって、「…はずが(は)ない」の対応する中国語表現は、中国語の可能助動詞「不會」、「不可能」である。例えば、

文型 1 {用言連体形} はずが(は)ない

(10) 手を縫うはずはないんだけど、…… (山の)

明知不會車到手…… (劉・嚴)

3-2-1-2 「助動詞う／よう」の場合

助動詞「う／よう」は、国語辞書では、大体「意志や勧誘、推量、および動作、作用の始動などを表わす」と説明されている。中には、「実現可能性」(『大辞泉』)、「可能性を表わす」(『広辞林』)という意味用法を特に取り上げて記述している辞書もある。本稿では、「う／よう」の諸用法の中の、「可能性」を表わす用法に着目し、特に、「可能性」と緊密に関与する「推量」の用法を取り上げて研究する。

森田 1989 では、「う／よう」の「推量」の用法について、「その事柄の成立はほとんど間違いないという話し手の判断を表わす」と述べた。この記述から、「う／よう」の「推量」の対象は、ある事柄の実現の可能性であると考えられる。

(11) 午後は天気がよくなろう。

下午天氣可能／會好轉吧。(筆者訳)

(12) あなたの兄さんも行かれようから、誘ってごらん。(口語)

¹¹⁾ 詳細について 林 1998、p9-12 参照

¹²⁾ 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』p270

或許你哥哥也會去，邀他一下看看。(蔡)

終止形で使われる「う／よう」は、話し手が主観的に事柄の実現の可能性を見込んで下した判断を意味する、と考えられる。この用法で使われる助動詞「う／よう」を中国語に訳す場合、中国語の可能助動詞「會」、「可能」を使う。

また、「う／よう」の連用形で、(形式)名詞「こと」、「もの」、「はず」、「わけ」などを下接して、可能の意味を表わすものもある。

文型2「う／よう」{(形式)名詞否定形}

- (13) あの男がそんな悪いことをしようはずがない。(前出の誤文例1)
 那個男人不可能做出那麼壞的事。(筆者訂正)
- (14) 何かの謡の節が、信吾の心に浮かんできても、浮かんで来たというだけのことで、墨の衣のさとのあろうはずはない。(山の)
 有首歌謠的一個小節浮現在信吾的腦海裡，但他僅止於浮現而已，並不會讓他有什麼頓悟。(劉・嚴)
- (15) 父が反対しよう気遣いはない。(文法)
 父親不可能／不會反對的。(筆者訳)

上の例文では、連体形の「う／よう」が、否定形式を取る(形式)名詞と連用して、事物の実現可能性を否定する意味となり、中国語に訳す場合、中国語の可能性を表わす助動詞「會」、「可能」の否定形「不會」、「不可能」を使う。

ところで、上の例文が、動詞の連体形を使い、直接に否定形式の(形式)名詞を下接すれば、「う／よう」を用いなくても同じく「不可能」の意味を表わせるにもかかわらず、なぜ、「う／よう」が用いられるのか、という疑問があらう。「う／よう」は、現在、未来について推量をする場合、推量される事柄の実現の可能性を主観的に判断するニュアンスがあることを前述した。「はずがない」など「事柄の可能性」を否定する表現といった同質性のものと併用するのは、強調の意味あいをつけるためであると思われる。

3-2-1-3 「わけ」の場合

「わけ」の語彙的意味は、辞書¹³⁾の解釈によると、大別して①事物の筋道、道

理②事情③深い事情（特に男女間の事情について）④意味、という4つにある。これらの意味を持つ文を中国語に訳す際、普通「原因、理由、内情、意義」などの名詞を使用する。

しかし、「わけ」の後に打ち消しの語を伴って「…わけに（は）いかない」になると、その意味も一転して、「(理論的な帰結として) そうすることができない」、「…そう簡単に…する状態ではない；…できない」、といった、「外的条件による制限、不可能」の意味になる。中国語へ訳すとき、「不能」になる。

文型3 {体言；動詞終止形} (という) わけに (は) いかない

(16) さりとてテレビを見るわけにもいかないし、日溜まりに寝転んで午睡を取ることも出来なかった。(恍惚)

既不能整天看電視，也不能睡整天。(余)

また、「…わけがない」という表現も中国語の可能表現との対応がみられる。

文型4 {体言；動詞終止形} わけがない

(17) 東京の空気を缶詰にしたところで、買う人があるわけがない。(慣用)

既使將東京的空氣裝入罐頭，誰也不會買。(劉)

例文(17)では、「誰かが買いに来る」という事態、現象になる可能性を否定する。つまり、「わけがない」という表現は、ある動作、作用、あるいは、ある事態、現象が現実に行われたり、発生したりする可能性を否定するときに用いられる。そして、中国語に訳す場合、「可能性」を表す「不會」、「不可能」を使わなければならない。

3-2-1-4 「べし」の場合

文語「べし」の各活用形、たとえば、未然形「べから」に否定「ず」を接続し、「べからず」を用いるものと、「ざる」を接続して「べからざる」を用いるものと、連用形「べく」を用いるものなど、いくつかの慣用表現がある。これらの表現も「可能」の意味を有する。以下、その例を挙げる。

¹³⁾『大辞泉』松村明 監修 1995 小学館参照

文型 5 {動詞；助動詞の終止形} べからず

(18) 無用の者、立ち入るべからず。

非関係者禁止／不可／不得進入。(筆者訳)

文型 6 {動詞助動詞の終止形；サ変動詞語幹} べからざる {体言}

(19) 人口問題は無視すべからざる問題である。(慣用)

人口問題は不可忽視の問題。(劉)

文型 5・6 は禁止の意味を表す表現ではあるが、「有情物・非情物が外的条件や情理上から制限を受け、動作の実現が不可能だ」、という話し手の判断を表す表現でもあるから、禁止（許可／不許可）を表わす表現も可能表現であると考えられる。渋谷 1986 はこれを「外的条件可能」として扱っている¹⁴⁾。

文型 7 {動詞終止形；サ変動詞語幹} べくもない

(20) 相手商社の商業活動は知るべくもない。(前出の誤文 2)

無法知道對方商社の商業活動。(筆者訂正)

「べくもない」は「…（ことは）とてもできない；…する余地もない」という意味を表す。つまり、ある動作や状態が、実現の方法がないとか、力の差があるなどといった内的・外的条件の制限によって、その動作や状態の実現が不可能であることを意味する。したがって、「べくもない」という表現も可能表現だと考えられる。「べくもない」は、条件可能であるから本来なら中国語の「不能」と対応するが、「べくもない」の「…したくてもできない」という意味合いを考えて、「無法」がもっとも適切な訳語だと考えられる。

3-2-1-5 「なる」の場合

動詞「なる」は、「実る、出来あがる、成り立つ、成長する、経過する、達する、変化する、役、任、地位などにつく…」など数多くの意味を持っている。これらの意味用法に限っては、可能を表わす意味合いがないと思われる。しかし、否定の表現を伴う「なる」の用法では、可能の意を表わすこともできる。このような用法において、動詞「なる」は、「…することができる；…してさしつかえな

¹⁴⁾ 渋谷 1986 「可能表現の発展・素描」『大阪大学日本学報 5』p105-106 参照

い；…することが許される」というような意味になり、中国語訳では、可能表現を使う。たとえば、

- (21) 満員で身動きもならず、…（小矢野 1978 の用例）
人太多、動不了、…／人太多、不能動、…（筆者訳）

また、「なる」を用いて、また次のような文型で禁止を表わす用法もある。

文型 8 {動詞連用形} ては ならない

- (22) 国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教的活動もしてはならない。
（日本国憲法第 20 条）
國家及其機關不得從事宗教教育及其他有關宗教性的活動。（筆者訳）

3-2-2 文脈から可能の意味が汲み取れる文型

この種の文型には、従来の可能表現も含まれていなければ、可能の意味を内包した語彙も含まれていない。しかし、文型全体または文脈から判断して、可能の意味が含まれていると考えられ、中国語へ翻訳する際、可能表現を使用するのが自然だと思われる。

3-2-2-1 「{体言（が）}あつての {体言}、{動詞連用形} てこそ（初めて）、{動詞連用形} てのみ」

文型 9 {体言（が）}あつての {体言}

- (23) 決算というのは、計画や予算あつてのものです。（前出の誤文例 3）
決算は有了計畫和預算之後才能進行的。（筆者訂正）

文型 10 {動詞連用形} てこそ（初めて）

- (24) 奮闘があつてこそ、本当の成功がある。（慣用）
只有奮斗才能有真正的成功。（劉）

文型 11 {動詞連用形} て 初めて

- (25) 経営戦略があつて始めて、管理技術などが生きてくというものだ。（慣用）
有了經營戰略之後，管理技術才能發揮作用。（劉）

文型 12 {動詞連用形} て のみ

- (26) 経営の成否は、結果によってのみ判断されるものである。(慣用)
 經營的成敗只有根據結果才能進行判斷。(劉)

文型 9、10、11 のような表現は、A という条件が満たされたら、B という結果が実現できるという意味があるので、従来の可能表現が含まれているかどうかにかかわらず、中国語に訳すとき、中国語の可能表現を使用する。

以上見た四つの文型は、すべて「順接条件」を含む文である。つまり、前文で述べる動作・作用、あるいは事物・現象がまず存在・作用して（必要条件）、その存在・作用によって、後文で述べる事態・現象（肯定の結果）が実現される可能性が導かれる、ということである。

3-2-2-2 「[動詞終止形] ものか（もんか）」

「もんか」には、2つの意味用法がある。一つは、「強い打消し、また打消しを通じての強い決意を表わす」用法である。

- (27) 家になんか帰るもんか。
 我絶不回家。(筆者訳)

つまり、「家になんか帰るもんか」と言えば、「絶対に帰らない」ということを言いたいわけである。この用法の表現を中国語に訳す場合、否定形式を取り、「不+動詞」となり、そして打消し語「不」の前に、さらに強い意志を強調する副詞、例えば「絶対」、「絶」、「才」などを用いる。

「もんか」のもう一つの意味用法は、「反語」を表わすことである。しかし、「[事柄の叙述] ものか」の形式で表わす反語表現では、表現全体の意味から、例文(28)のように、その叙述された事柄の「実現可能性」・「存在可能性」を否定したり、あるいは、例文(29)のように、ある動作が「外的条件制限」によって、その動作の実現が「不可能」・「許されない」であったり、というニュアンスが含まれているため、可能表現としての働きが見られる。勿論、中国語の可能表現との対応も見られる。

文型13 [動詞終止形] ものか（もんか）

- (28) 映画館に実弾を込めた銃を担いで行ったりする馬鹿がどこにいるものか。

(砂の)

哪里會有荷着上了子彈的槍走進電影院的傻瓜。(鐘・劉)

- (29) こんなところで、これまでの俺の生活が中断されたりしてたまるもんか。

(砂の)

我這個人的生活，怎麼能在這樣的地方被迫中斷呢。(鐘・劉)

ただ、「ものか」は反語の意味で使われているため、中国語に訳するときもこれにしたがって、「哪里會」，「怎麼能 (够)」といった反語形式を用いる。勿論、反語という形式に縛られずにこれらの反語表現を「不會」，「不可能」，「不能 (够)」と訳してもよい。

3-2-2-3 「[動詞終止形] しかない」

副助詞「しか」は、体言、動詞連体形、形容詞・形容動詞の連用形に下接して、常に打消しを伴って、一つの特定のものを取り上げ、その他一般を否定する関係を表わす。「しか…ない」が中国語の副詞「只」，「僅」と対応することはいうまでもない。

しかし、「動詞連体形」に下接する場合について考える。

文型14 [動詞連体形] しかない

- (30) 巣では、受け身に待ち受けているしかないが、ランプを使えば… (砂の)

結了網，只能被動地等待，利用燈光的話… (鐘・劉)

例文(30)は、趨光性を持った蜘蛛がランプを使って、積極的に獲物をおび寄せることについての叙述である。もし、糸を張り、巣を作れば、受け身になって獲物を待ち受けるという方法しか出来なくなる。つまり、巣を作った蜘蛛は、環境的条件に制限され、待ち受けるという手だけを使えるのである。こうして、本来ならいろいろなことができるはずなのに、環境や情理上などの「外的条件」によって、動作主の動作を施す「能力」が制限されてしまったことを「外的条件可能」(渋谷 1986) という。

例文(30)の中に、従来の可能表現が用いられていないが、表現全体の意味から、

「外的条件可能」の意味を汲み取ることができたため、中国語訳では、能力可能や条件可能を表わす可能助動詞「能」を使った、と考えられる。そして、問題提起の誤文例(5)を以下のように改めればよからう。

- (31) 多くの人がこの岬にやってきてダイビングをする。我々ダイビングのできない人間は、この美しい風景を見るしかない。(前出の誤文例5)

許多人來到這個海岬潛水。我們不會潛水的人只能看看美麗的風景。(筆者訂正)

4 まとめ

本稿は現代日本語の中に、従来は「可能表現」と見做されていないにもかかわらず「可能」の意味が潜んでいて、中国語に翻訳する際、中国語の可能表現を使わなければならない文型が存在している、という仮説を立てた。そして、研究の手

日本語表現	条件可能		可能性可能		許可
	能(够)	可以	會	可能	不可以 不得、禁止
はず(見込事態推論)			●		
はずがない			●	●	
よう			●	●	
よう+形式名詞(否定)			●	●	
わけにはいかない	●				
わけがない			●	●	
べからず		●			●
べからざる					●
…てはならない					●
体言あっての体言	●				
…てこそ	●				
…てはじめて	●				
…てのみ	●				
動詞+ものか	●		●	●	
動詞+しかない	●				

順として、これらの文型表現を「可能表現を内包した単語が含まれた文型」と「文脈から可能の意味が汲み取れる文型」の2種に分けて考察してきた。考察の結果は下の表のようにまとめられる。

現代日本語の中に、可能表現の枠に分類されてきた従来の5つの表現形式のほかに、可能の意味が潜んでいて、可能表現として認められるべきと考えられる表現が多数存在している。有対自動詞および小矢野 1978、1979、1981 で指摘されたものの他、本稿で取り扱った内容も可能表現として認められるべきであろう。

本稿は、翻訳の実際から、これらの表現を中国語の可能表現と対照し、そして、これらの表現を中国語で表現する場合、中国語の可能表現との対応関係があることを明確にした。本研究は、中国語話者の日本語学習者が、日本語の可能表現の全貌を掴み、より正確に日本語文を中訳できるように、また、日本語話者の中国語学習者が、日中両言語の可能表現の対応関係を正確に把握し、より正しく中国語を習得する指針を提示したものである。

例文の出典及び訳者名の表記について

() の中は引用文献の略、及び訳者名の略である。(筆者訳) と記したのは、日本語文献からの引用を筆者が訳したものである。また、出典の明記していない例文はすべて筆者の作例である)

1. (慣用) (劉) 『日本語・中国語慣用語法辞典』 劉曉民 著 日本実業出版社
2. (口語) (蔡) 『現代日本語文的口語文法』 1992 蔡茂豐 大新書局
3. (砂の) 『砂の女』 1981 安部公房 著 新潮社
4. (鐘・劉) 『砂丘之女』 1975 鐘肇政・劉慕沙 譯 純文學出版社
5. (恍惚) 『恍惚の人』 1982 有吉佐和子 著 新潮社
6. (余) 『恍惚的人』 1973 余阿勳 譯 皇冠雜誌社
7. (山の) 『山の音』 1957 川端康成 著 新潮社
8. (劉・嚴) 『山之音』 1994 劉小玲・嚴桂蘭 譯 星光出版社
9. (文法) 『日本文法大辞典』 1972 松村明 明治書院
10. (大林) 『大辞林』 1990 松村明 三省堂

主要参考文献

- 小矢野哲夫 1978「現代日本語可能表現の意味と用法（Ⅰ）」『大阪外国語大学学報 45 言語』
- 1981「現代日本語可能表現の意味と用法（Ⅱ）」『大阪外国語大学学報 48 言語』
- 1981「現代日本語可能表現の意味と用法（Ⅱ）」『大阪外国語大学学報 54 言語』
- 金子尚一 1980「可能表現の形式と意味（1）— “ちからの可能” と “認識の可能” について — 『共立女子短期大学（文科）紀要』 7
- 篠崎一郎 1981「「ハズ」の意味について」『日本語教育』 44 号
- 渋谷勝己 1986「可能表現の発展．素描」『大阪大学日本学報 5』
- 寺村秀夫 1984「日本語のシンタクスと意味Ⅱ」くろしお出版社
- 野田尚史 1984「～にちがいない／～かもしれない／～はずだ」『日本語学』 3-10
- 三宅知宏 1993「認識的モダリティーにおける確信的判断について」『語文』 61 大阪大学
- 森田良行 1988『日本語の類意表現』創拓社
- 林煒煌 1998「日中両言語における可能表現の対照研究 — 翻訳の実際から —」大阪大学大学院言語文化研究科修士学位論文
- 劉曉民 1995『日本語・中国語慣用語法辞典』日本実業出版社
- 王恬 1995「中日対照現代語の動詞表現についての研究 — 可能表現の形式と意味を中心に」『日本語の研究と教育 — 窪田富男教授退官記念集』専門教育出版社
- 張威 1991「結果可能表現 — 中日語対照研究の立場から —」名古屋大学修士論文集
- 1993「結果可能理論序説」『中部大学国際関係学部紀要十一』